卒業論文

日本における行事文化の持続性と変容

――お正月文化を事例として――

2015 年度入学

九州大学 文学部 人文学科 人間科学コース

社会学・地域福祉社会学専門分野

2019 年 1 月　提出

要約

日本では 1 年あるいは一生の間にたくさんの行事がある。それらは、伝統的なものや新しく外国から来たもの、学校などの集団において行われるものなどさまざまであり、その時代の生活環境の中で生まれたり伝わったりして、文化として定着した。また、それに伴うその行事特有の食や慣習が存在している。子どもの頃は、兜や雛人形をかざり、行事に対して積極的であった。子どもが主役である行事が多いというのもあるが、大きくなるにつれて、年々実施する行事は減り消極的になっていった。毎年行っている行事でも、年々簡素なものとなって様相を変えている。行事文化は、さまざまな要因の下、時代に合わせて変化・消失を繰り返し、様相を変えてゆく。特に、お正月は毎年 1 年の区切りとなる日であるため、意識されることが多いが、お飾りや料理など簡易化されている場合も少なくない。お正月文化を実施している人の割合が減ったり、形や様式が変わったりしているが、いまもお正月はお正月のままお祝いの日とされている。慣習を行わないあるいは変わりながらも、お正月という形は受け継がれ残っているのはどういうことか、また、本来の意味のなくなったお正月はいまどういうものなのか。単なる年の変わり目ではなく、だんだん簡易化されながらも行事として残っている正月を例として、いまもなお受け継がれている文化や慣習に関して、年々さらに便利になっていく現代での行事文化について見直した。

子ども時代を実家で親とともに過ごし、現在は実家あるいは一人暮らしをしている大学生は、まだ大人として完全には自立していないが、過ごし方をある程度自由に選択することができる。生活や行動の範囲も広まっている。そこで、大学生 6 人を対象にインタビュー調査を行った。

お正月の習慣は時代を経る事に少しずつ変わっているが、近年の変化の要因となっているものとして、技術の発達や合理性、グローバル化や考え方・選択肢の多様化が挙げられる。技術の発達により、人々は簡単で便利な方へ流れていく。これはお正月の文化にも当てはまり、お飾りや料理、年賀状といったあらゆる文化が合理的なものとなった。また、情報技術の発達により、お正月において SNS の存在は大きくなっており、年賀状のより手軽なものとして代用されるほか、新しい世界として年越しの瞬間を共有してワイワイ楽しむなど、現代ならではの文化へとなっている。さらに、人生において、ライフスタイルや趣味嗜好が多様化し、グローバル化などにより外国の文化とも融合したことで、お正月の過ごし方も多様

化した。

このように時代に合わせて変化を続けながらも、お正月はいまもなお伝統的な行事として行われている。全体としては、行っている人の割合は減って、意味合いも形も変わってはいるが、お正月のさまざまな文化や風習も今も行われている。その要因となっているのが、家族という集団や、親戚や友人との繋がり、日本人としての自覚、商業者やメディアによる影響である。家族が普段バラバラになって過ごしているからこそ、お正月という機会に集まり、また、それぞれの家庭で何かしらの風習を毎年恒例として行うことによって、家族の絆は深められる。これにより、伝統的な風習が親から子へと受け継がれていく。お正月が続いている要因が家族の繋がりであり、お正月をツールとして家族は繋がりを強めるという相互作用する関係となっている。このように家庭であったり、あるいは学校であったりで直接文化と触れ合えるような教育を行うことで、本質的に伝統を受け継ぐことができる。また、家族だけでなく、親戚や友人とも、年賀状や、新年に挨拶を交わすツールとしてこれに代替わりする SNS によって、繋がりを深めている。こちらでも同様に、親戚や友人との繋がりとお正月の持続性は相互作用している。さらに、グローバル化する中で日本の文化を見直し、行事文化を通して、日本人個人としてのアイデンティティについて、その背景や価値観を知る機会となる。そして、毎年同じ年末年始の特番を放送するメディアや、お店の一角に設けられるお正月に関する商品のコーナーは、人々にお正月を想起させる。

時代に合わせて簡単になるから受け継ぎやすくなり、また、受け継がれているからこそ、そこにある本来の意味に触れることができ、伝統が守られるといえる。このような要因の下に、お正月ないし年中行事は変容しながらも持続している。

現在、人々にとってのお正月は、新しい年を迎え、1 年の節目として、また今年も 1 年頑張ろうと目標を立てたり、深く考えずとも気持ちを新たにしたりする日となっている。1 年に 1 度自分と向き合ういい機会であるともいえる。また、正月飾りやお正月文化は、お正月であることを視覚的に捉える役割を果たすとともに、お正月らしさを演出するシンボル的な役目を担っている。それでもお正月は、特有のなにか清々しさが感じられたり、ずっとゴロゴロだらだらしていても怒られず、子どもにとっては夜更かしができお年玉ももらえる、非常に特別感の溢れる日である。

目次

第 1 章　研究の目的 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
第 2 章　年中行事の成り立ち ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
第 3 章　年中行事の変容 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
3.1　役割 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
3.2　家族と行事 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
3.3　技術の発達と合理性 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
3.4　個人と年中行事 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
3.5　世界観・宗教性 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
3.6　これから ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
第 4 章　お正月の起源と変遷 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
4.1　期間 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
4.2　準備 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
4.3　大晦日 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
4.4　正月飾り ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
4.5　食事 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
4.6　年玉 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
4.7　年賀 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
4.8　初詣 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
4.9　初売り・初商い ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
4.10　新年の挨拶 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
第 5 章　現在のお正月文化の実施状況 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
第 6 章　調査概要 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
6.1　調査対象 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
6.2　調査日程 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
第 7 章　分析・考察 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
7.1　変容 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
7.1.1　情報技術・機器の発達 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
7.1.2　合理性 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
7.1.3　選択肢の多様化 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
7.2　持続性 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
7.2.1　家族とお正月 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
7.2.2　友人や親戚との繋がり ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
7.2.3　教育 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
7.2.4　日本人としての自覚 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。

7.2.5　商業とメディアの影響..... エラー! ブックマークが定義されていません。
7.3　現在の意味・役割..... エラー! ブックマークが定義されていません。
7.3.1　意味..... エラー! ブックマークが定義されていません。
7.3.2　お正月らしさ ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
7.3.3　特別感..... エラー! ブックマークが定義されていません。
7.3.4　イベントとしてのお正月 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
第 8 章　結論..... エラー! ブックマークが定義されていません。
参考文献 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。